2022.02.21

「Alexa！」「Hey, Siri」「OK, Google」

ATMX+ Special Letter （情報提供用資料）

この情報提供用資料は、ATMX+指数の、構成企業であるシャオペン・モーターズについてお伝えします。

資料のタイトルを声に出して読み上げるだけで、身の回りにあるすべてのスマートデバイスが起動してしまいそうですが、この独特なタイトルはもちろん今回の内容と関係があります。読み進めればその意味に納得していただけるかと思うので、最後までお付き合いいただけると嬉しいです。

1月の終わり、私はある車に試乗したのですが、このスペシャルレターはその話題から入ろうと思います。読んでくださっている皆さまは、私が何の車に試乗したのか、ちょっとしたクイズ感覚で読み進めていただければと思います。先日私は、川崎で話題の車を試乗しました。勘のいい方は「川崎　話題の車　試乗」の脳内グーグル検索で、瞬時にどこのメーカーの車を試乗したかわかる方もいらっしゃるかもしれません。

乗車直後の感想は「えっ、少ない！」です。というのも、普段見慣れている、運転席にある速度メーターやガソリンメーターが、文字通り「何も無かった」からです。そして注目していた運転技術ですが、完全自動運転は日本の法律上試すことはできませんでした。しかし、周りの車を感知するなどの、ドライバーをアシストするきめ細やかな機能に、10年以上前に購入した国産セダンを利用している私としては、試乗中終始驚きの連続でした。

自動車に音声がなぜ必要なのか

早速ですが正解発表です。先日私が乗ったのは、テスラの『Model 3』（より正確にお伝えすると『Model 3 ロングレンジ』）でした！

読んでくださっている皆さまの中には「今更テスラ？」と思われる方もいらっしゃるかと思いますが、お恥ずかしい話、株価は気にしているものの、実際に乗車するのは今回が初めてでした。「いつかは乗らなきゃと」と思いながら丸1年が過ぎ、街中でテスラ車を見かける機会が増えたのをきっかけに、試乗を決めました。試乗をして感じたこととして以下のようなことがあります。

- 基本的にボタンは最小限。ミラーやライトの操作、ハンドルの重さの変更等も全てタッチパネル操作。
- ハンドルの後ろにスピードメーター等はなし。ただし、タッチパネルの運転席側、すぐ目に入る位置にスピードを表す数字があるため、メーターが無いことによる速度超過はあまりなさそう。
- 巻き込み事故を防ぐために、左折時に車後方部分をタッチパネル上にビデオ投影してくれるのはありがたい。
- クルマのセンサーで探知できる範囲は、運転状況によって異なるが、前方1.2車。後方の1車。サイド1車。歩道の歩行者は2、3人くらい。
- 搭載されているソフトウエアに遊び心がある。タッチパネルに表示される自動車をサンタクロースやトナカイに見立てるモードが可愛かった。

試乗中、私が質問すること質問すること、そのほとんどへの回答が「タッチパネルで出来ますよ」と言われてしまい、すこし恥ずかしかったです。試乗を通じてテスラの技術力はもちろんのこと、UI/UXに垣間見える「車に乗るにとどまらない体験の提供」を感じることができました。

中でも私が感じたのは、音声アシスタント（テスラでは『ボイスコマンド』というそうですが）の重要性です。テスラ車において音声アシスタントを使わない場合、各種機能を操作するためにはタッチパネルを”見る”必要があります。それを運転の片手間でやるのは、ボタンで見なくても操作できた今までの車と比べると、少し危険が伴うように感じます。タッチパネルを操作しながらの運転はおそらく、スマホを操作しながら運転を行う、いわゆる「ながら運転」に近しい状態ではないでしょうか。だからこそ、快適さを追求するためだけではなく、安全を確保するために、画面を見ずにやりたいことを行える音声アシスタントが必要なのだと実感しました。自動車メーカー各社が、自社で音声アシスト機能を開発したり、既存プレイヤーとタッグを組み、その技術力の向上に努めている理由が改めて分かりました。

私は普段「Alexa！」「Hey, Siri」「OK Google」などをあまり使用してこなかった人間ですが、今後はそれを使う機会が増えていくのでしょう。時代に取り残されないためにも、最先端技術のキャッチアップは大事ですね。

新興EVメーカー三銃士

さて、音声アシスタント機能といえば、ATMX+指数構成銘柄のシャオペン・モーターズ（Xpeng Motors　小鵬汽車）が、先日のこんなニュースを発表しました。

> シャオペン・モーターズは、マイクロソフト社の『Azure AI』を活用し、自社EV内における自動音声アシスタントシステムをアップグレードしていくことを発表した。
> シャオペン・モーターズのAIプロダクトシニアエキスパートのHao Chao氏は「これは自動車業界にける最先端の取り組みで、その結果ドライバーはこのシステムを通じて、全く新しい体験を得られるようになるだろう」と述べている。

これまで、私のテスラ試乗体験記を長々と書いてしまいましたが、そろそろこのファンドレターのメインとなるシャオペン・モーターズやその他企業について書いていこうと思います。

グローバルな流れとして、EVへの投資や開発が進められていますが、それはもちろん中国でも同じです。中国のEV市場ではすでに、BYDやテスラ（Tesla　以下、テスラ）などが一定程度のシェアを獲得していますが、その牙城を崩そうとしているのがシャオペン・モーターズをはじめとする新興EVメーカーです。新興EVメーカーがどの会社を指すのかは場合によりますが、シャオペン・モーターズと比較されることが多いのは二才（NIO　上海蔚来汽車）とリ・オート（Li Auto　理想汽車）でしょう。各社に対して皆さまが持っているイメージは人それぞれだと思いますが、簡単に各社を紹介すると以下のようになるかなと思います。

シャオペン・モーターズ	最先端技術の導入・開発がスピーディーで、自社でのOS開発はもちろん、既存IT企業との協業を積極的に進めている。 モーターショーや企業アカウント、CEOなどの講演などにおいて、度々空飛ぶ車について言及し、現状の車の形にとらわれない発想で最先端の移動を探求している。
二才	「車の鍵を渡してからが、私たちの仕事」と言うほど、ドライバーのアフターフォローにもに力を入れている。 BaaS（Battery as a Service）という、車体のバッテリーごと交換してEVの充電を行うサービスを同時に展開。そのためバッテリー交換を行うバッテリー交換ステーションの設置にも注力。
リ・オート	その他2社に比べて比較的新しい会社。現状はシングルプロダクトだが、今後数年にわたって新たなモデルを市場に投入していく予定。 「レンジエクステンダー」という航続距離を伸ばすための仕組みを搭載しており、航続距離の長さは他社に比べて大きな優位性を持つ。

三銃士のここ数年の歩み

ここ数年のEV業界の話題は、イーロン・マスク氏率いるテスラが席巻していたと言っても過言ではないでしょう。しかしながら、中国新興EVメーカー3社に関するニュースも実はかなりありました。新モデルの発売や驚異的な成長率、空飛ぶ車などなど。以下に2021年初からの、上記3社に関するニュースをいくつか抜粋してまとめてみました。

2021年		
1月	NIO	『NIO DAY 2021』を開催し、新型セダン『ET7』を発表。
2月		
3月	Xpeng Motos	『P7』を用いた自動運転技術調査のための長距離走行がスタート。中国国内6つの州を走行し、合計走行距離は3,675kmにも及ぶ。
4月	Xpeng Motos	上海モーターショーにおいて、世界初となるLiDAR技術を搭載した新型セダン『P5』を発表。また同タイミングで、空飛ぶクルマの第2段プロトタイプを公開した（第1弾は2020年9月の北京モーターショーで公開）。
	NIO	累積EV生産台数が100,000台を突破。2018年5月の生産開始から1,046日での達成。
5月	NIO	初の海外進出として、ノルウェーのEV市場に参入することを発表。
6月		
7月	Xpeng Motos	香港株式市場へ上場。米国株式市場との複数上場となる。
	Xpeng Motos	ハンセン総合指数の構成銘柄に採用。
8月	Li Auto	香港株式市場へ上場。米国株式市場との複数上場となる。
	Li Auto	グローバル市場に参入するため、ヨーロッパに新たな生産拠点を設ける可能性について報じられる。
9月	NIO	ノルウェーにおいて『ES8』の販売を開始。NIOユーザーが使える『NIO House	Oslo』も10月にオープン。ノルウェー国内のバッテリー交換ステーション数も、2022年までに20台までに増やす予定。
	Li Auto	多くの企業がメタバース領域に注力する中、Li Autoも『Li Auto Metaverse（理想元宇宙）』という商標登録を行った。
10月	Xpeng Motos	9月の月間EV納車台数が10,000台を突破し、10,412台となった。前年同月比で199%の成長となった。
	Xpeng Motos	ノルウェーでの海外展開をスタート。SUV『G3』とセダン『P7』の出荷を開始した。2022年にはさらに欧州市場に参入することを目指している。
	NIO	9月の月間EV納車台数が10,000台を突破し、10,628台となった。前年同月比で125.7%の成長となった。
	Li Auto	生産開始から708日で、累積EV生産台数が100,000台を突破したと発表。
11月	Xpeng Motos	『広州モーターショー』で新型SUV『G9』を発表。2022年の第3四半期に発売予定。
	Xpeng Motos	クアルコムとの戦略的パートナーシップを締結したと発表。
12月	Xpeng Motos	11月の月間EV納車台数が15,000台を突破。前年同月比で270%、前月比で54%の成長となった。
	NIO	『NIO DAY 2021』を開催し、新型EVセダン『ET5』を初披露。同時に、2025年までに25か国以上でサービスを展開する予定を明らかに。
	NIO	年初に掲げた、バッテリー交換ステーションの設置台数700台の達成を発表。
	Li Auto	11月の月間EV納車台数が10,000台を突破し、13,485台となった。前年同月比で190.2%の成長となった。
	Li Auto	重慶市との戦略的協力体制を結び、今後同市における投資を加速させ、関係をより一層強固にしていくと発表した。
2022年		
1月	Xpeng Motos	Microsoft社のAzure AIを活用し、自社EV内における自動音声アシスタントシステムをアップグレードしていくことを発表。
	Xpeng Motos	2021年度の年間EV納車台数が98,155台となり、NIOとLi Autoを含めた3社で、2021年年間EV納車台数でトップに。
	NIO	2021年度の年間EV納車台数が91,429台となったことを発表
	Li Auto	2021年度の年間EV納車台数が90,491台となったことを発表
2月	NIO	中国の旧正月の休暇期間（1/31～2/6）、『NIO Pilot』（最新の運転支援システム）を用いて走行した車の合計走行距離は750万kmとなったと発表。中には1日の最長走行時間が17.2時間に及んだ車もあった。

※（出典）各種資料より大和アセットマネジメントが作成　※情報は発表時のものであり、その後変更になっている場合があります。

当初は2020年からの年表を作成したのですが、あまりにも長くなってしまったため、泣く泣く2021年初からに割愛しました。それでも十分多くなってしまいましたが。このとても長い年表を見て「日々こんなことが起きてるんだな～」「ちょっと調べてみようかな～」っと、中国新興EVメーカーに興味を持っていただけたら幸いです。

最後に

さて、乗車後に早速『model 3』の見積もりをテスラのウェブサイトで確認したところ、そのお値段は5,640,000円※1。車もだいぶ古くなってきたので購入したいなと思いつつ、私の資産の大半は投資信託が占めており、年初から続く不安定なマーケットの影響を受けて、資産が大きく目減りしていることを思い出し、静かにパソコンを閉じました。私がテスラ、ひいては台頭する自動車メーカーのEVを購入できるようになるのは、どうやらまだ先になりそうです。

※1　資料作成時点の価格。追加するオプションや政府により補助金等により価格は変化します。

当資料のお取扱いにおけるご注意
- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドにつ ゆ換組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 本PDFは印刷に不向きなデザインです。

Daiwa Asset Management
URL https://www.daiwa-am.co.jp/　お問合わせ 0120-106212（受付時間 9:00～17:00）